

令和6年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【太田小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査において、国語においては文章の構成、算数においては四則演算、グラフの読み取りなど他教科にも関わる学習内容に課題がある。学力向上タイムでも、この領域を意識した学習内容を重点的に行っていく。
思考・判断・表現	何のためにこの勉強をするのかという学習のめあてを意識した振り返りができるようになることで、学習に対する「思考・判断・表現」が深まると考えられる。今年度は、学習の振り返りへの意識が高まってきた。そこで、来年度は、学習者が常に学習のめあてを念頭におきながら学ぶことができるような授業を進める。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 定義、算数的、理学的の定着が不十分である。</p> <p><指導上の課題> 基礎学力を定着する時間の確保ができていない。基礎学力向上タイムが有効活用できていない。</p>	<p>⇒</p> <p>学習の様子によっては、前学年の内容を振り返ることも視野に入れるなどの学習活動の工夫をする。学習が苦手な児童の学習が定着できるように支援、声かけを通年を通して取り組む。基礎学力向上タイムを効果的に行えるよう内容、学習形態の計画をする。【月に1度】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 考えることや表現することに苦手意識があるのか記述式問題に無解答率が高く見られる。</p> <p><指導上の課題> めあてを意識した振り返りの時間の確保。</p>	<p>⇒</p> <p>思考が単純なもので留まらないよう、「なぜ」「どうして」の問いかけを適宜投げかけることで思考を深める経験を学習の中で積ませる。また、それらを踏まえた振り返りの時間を設ける。【毎時間3分実施】</p>

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	教職員での共通理解をし、取り組んでいるが児童の「知識・技能」の力の定着については、継続的な取組が必要である。特に、算数における小数の減法、除法等における計算技能の定着については今後も学力向上タイムの活用を考えたい。
思考・判断・表現	B	疑問を持たせたり、振り返りを意識したりする学習計画については学校課題研修も含め推し進めた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語においては、自分の考えをまとめることに苦手意識が見られた。どのような書き方をすると中心がとらえやすい文章が書けるのかを知ったり、何を伝えたいのかをまとめる経験を授業の中でも積ませたい。算数においては、除数が小数の計算に課題が見られる。計算の定着に課題が見られるので、学力向上タイム等の活用を進めていく。
思考・判断・表現	国語においては、自分の考えを簡潔に表現することに課題が見られる。授業のふり返り等でも、自分が一番大切にしたいことをまず書くように指導を進める必要がある。算数においては、式の立て方に苦手意識が見られる。「多い」「少ない」という言葉を見て「たし算」「ひき算」としている可能性もあるので、式の意味や考え方を説明し、伝え合う活動の充実が必要である。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	無解答率は前年度に比べ、どの学年も減少傾向にある。国語では主語や述語、算数では四則演算、理科では物事や事象の定義や概念など、知識に関する課題が大きく見られた。
思考・判断・表現	無解答率は前年度に比べ、どの学年も減少傾向にある。国語では、書くことや、話し手への適切な助言といったことを考えることに課題がある。算数では、グラフから分かることについて読み取ることに難しさがあり、それは社会にも表れている。理科では、実験の行い方、その結果の妥当性をよく考えさせていく必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	教職員での共通理解をし、取り組んでいるが定着につながるにはまだ時間が必要である。	変更なし
思考・判断・表現	C	教職員での共通理解をし、取り組んでいるが定着につながるにはまだ時間が必要である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)